

令和 8 年度広南中学校区研究推進計画

校番 2 呉市立広南中学校

校長名 坪浦 敏美

1 学校教育目標

未来を創る
～誇りを持って故里を語り、受け継ぎ、発展を担う志と力を育てる教育の創造～

2 目指す児童生徒像

- 夢を持ち、夢を語り、志を抱き、その実現に向けて挑戦する児童生徒
- 時を守り、場を清め、礼を正し、学びを求める児童生徒
- 自ら課題を見付け、その解決に向けて、常に努力し続ける児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	情報収集・判断 思考・表現	協力・協働 感謝・貢献 責任・使命 挑戦・探究
後期	課題解決に必要な知識や技能を習得し、活用することができる。	学習してきた情報を構造化したり抽象化したりすることで、解決策を生み出すことができる。 自分の考えを、状況に応じて適切に表現したり、伝え合ったりすることができる。	他の人と協力し、それぞれの意見を分析しながら、より良いものを導き出すことができる。 感謝の心を持って、自分なりに社会へ貢献しようとすることができる。 自分の役割や使命を考え、するべきことを行うことができる。 疑問やできないことを大切にし、自ら課題を進んで見だし、探究的に粘り強く学び続けることができる。
中期	課題解決に必要な知識・技能を習得し、活用することができる。	学習したことを多面的・多角的に見ることで、根拠を明確にして解決策を考えることができる。 自分の考えを、目的や相手によって、効果的に表現したり、伝え合ったりすることができる。	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力をさらに発展させることができる。 感謝の心を持って、自分なりに地域へ貢献しようとすることができる。 自分の役割や使命を考え、するべきことを行うことができる。 疑問やできないことを大切にし、自分たちで問いを立てて、粘り強く解決していこうとすることができる。
前期	課題解決に向けて必要な知識・技能を習得し、活用することができる。	学習したことの中から、比較したり分類したりしながら、解決策を選び出すことができる。 自分の考えを分かりやすく表現したり、伝え合ったりすることができる。	他の人と協力し、いろいろな意見やそれぞれの力を生かすことができる。 感謝の心を持って、自分なりに家族や地域へ貢献しようとするすることができる。 自分の役割や使命を考え、するべきことを行うことができる。 課題解決に向けて、興味をもって、自分から粘り強く取り組むことができる。

4 研究主題等

(1) 研究主題

Society5.0を生きる資質・能力の育成

～主体的に考え、議論し、自己の生き方を考える道徳科の授業づくりを通して～

呉市が進める学校教育の重点施策として、教科等の本質に迫る「考える授業」づくりがある。道徳科の本質に迫る発問とは、児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話し合いを深めるための発問である。児童生徒が考える必然性や切実感のある発問、物事を多面的・多角的に考える発問等について、授業研究を通して研究を進めていく。また、「主体的に考え」の主体的とは、自分だったらどうするだろう、これまでの自分はどうだっただろうか、自分の生活に生かしていこう等、自分事として考えることである。自分事として主体的に考える道徳科の授業を充実させることにより、本学園の目標である「何事にも挑戦し、自律し、課題解決に向けて真摯に努力し続ける」児童生徒の育成を目指す。

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

道徳科が全面実施され、「考え、議論する道徳科の授業」への質的転換が求められている。しかし、話し合いや議論が深まらず、自分の生き方を考える授業づくりに課題があった。そこで、令和5年度から、道徳科の授業づくりに重点的に取り組んできた。具体的には、学級担任と道徳教育推進リーダーによるチーム・ティーチングを導入し、多様な授業展開を工夫してきた。その結果、児童生徒が主体的に考え、議論し、自分の生き方について考えを深める姿が見られるようになってきた。また、これらの研究を契機として、道徳科の授業に真剣に向き合おうとする児童生徒の意識の高まりも見られるようになってきた。

さらに、令和6年度からは、「道徳科で学んだことを生活に生かす」ことに課題があることを踏まえ、道徳科の学びと日常生活との関連を重視した指導の充実を図ってきた。

加えて、令和7年度からは対話の充実を図るため、サークル対話を取り入れ、安心して発言できる雰囲気づくりを行っている。児童生徒は、自分の考えを伝えたり、他者の考えを聞いて新たな気づきを得たり、疑問を共有したりしながら、対話を通して考えを深めたり広げたりする姿が見られるようになってきた。

一方で、対話の質をさらに高め、児童生徒一人一人が自分事として捉え、より深く自己の生き方について考えるまでには至っていないという課題も残されている。

以上のことから、児童生徒が主体的に考え、議論し、自己の生き方についてより深く考えることができるよう、発問の工夫や対話の質の向上を図った授業づくりについて研究を進める必要がある。

ア 研究実践の調査結果、考察

道徳科の授業において、児童生徒は、自分自身を振り返りながら考える意識が高まっている。小学校では「自分のことを振り返りながら考えている」（①）が大きく向上しており、道徳科の授業が自分事として捉えられるようになってきていることが分かる。中学校においても、高い水準を維持しており、自己を見つめる学習が定着している。

また、「友達と話すなどして、考えを深めたり、広げたりしている」（②）は、小学校・中学校ともに向上している。この結果から、これまで課題であった話し合いの深まりについて、授業形式を主体的・対話的なものへと改善したことにより、児

質問項目	小学生 (%)			中学生 (%)		
	R5 (5月)	R6 (12月)	R7 (3月)	R5 (5月)	R6 (12月)	R7 (12月)
① 道徳科の授業では、自分のことを振り返りながら考えている。	84.4	94.8	95.8	98.1	98.1	100
② 道徳科の授業で友達と話すなどして、考えを深めたり、広げたりしている。	87.0	94.8	97.8	88.9	94.4	100
③ 道徳科の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている。	81.8	93.5	95.8	81.5	92.6	84.4

道徳科の授業に関わる児童生徒の意識調査

児童生徒が自分の考えをもち、他者との関わりの中で思考を広げる姿が着実に育まれていると考えられる。

さらに、「道徳の授業で勉強したことを、自分の生活に生かしている」(③)は、小学校では大きく向上している。このことから、「道徳学習プログラム」を活用し、学びと日常生活とのつながりを意識した指導が、児童の実生活への意識の高まりに有効に働いていると考えられる。一方、中学校においては一定の向上が見られるものの、③の結果から、学びを実生活に結び付ける意識については、さらなる広がりが見られる段階にあると捉えられる。

自己肯定感に関わる「自分にはよいところがあると思う」

(④)は、小学校では令和6年度に向上が見られたものの、令和7年度ではやや変動が見られる。また、中学校においても、おおむね同程度の水準で推移している。④の結果から、道徳科の授業において自己のよさに気付かせる取組は一定の成果を上げているものの、その実感を継続的なものとしていくことが重要であると考えられる。

	質問項目	小学生 (%)			中学生 (%)		
		R5 (5月)	R6 (12月)	R7 (3月)	R5 (5月)	R6 (12月)	R7 (12月)
④	自分にはよいところがあると思う。	75.5	90.9	80.9	83.3	79.6	79.6
⑤	将来の夢や目標をもっている。	93.5	92.2	91.3	81.5	90.7	79.6
⑥	今住んでいる地域をよくするために、何かしてみたいと思う。	97.4	95.1	96.3	92.6	92.6	87.8

生活に関わる児童生徒の意識調査

「将来の夢や目標をもっている」(⑤)については、小学校ではやや変化が見られる一方で、中学校では向上する時期も見られるなど、発達段階に応じた意識の変容がうかがえる。また、「今住んでいる地域をよくするために、何かしてみたいと思う。」(⑥)は、小学校では高い水準を維持しており、中学校においても概ね肯定的な意識が保たれている。⑤・⑥の結果から、道徳科の学びを総合的な学習の時間や学校行事、地域との関わりと関連付けることが、児童生徒の自己肯定感や将来への展望、地域への愛着の形成に寄与していると考えられる。

以上のことから、本校区における道徳科の授業は、児童生徒が主体的に考え、対話を通して思考を深めるという点において大きな成果を上げているといえる。一方で、③や④の結果から、学びを実生活に生かす意識や自己肯定感の持続については、発達段階に応じたさらなる支援が求められる。

イ 今年度の取組

広南中学校区において作成した「はなしたいわ」シートを授業で計画的に活用し、児童生徒が自分の考えを整理し、根拠をもって表現したり、他者の考えを受け止めて考えを深めたりすることができるよう、対話の充実を図りながら、考え、議論する授業づくりを推進していく。また、発問の工夫や対話の質の向上に加え、学びを日常生活へとつなげる指導の充実を図り、児童生徒が道徳的価値を自分事として捉え、主体的に自己の生き方について深く考え続けることができるよう指導の充実を図る。さらに、保護者や地域の指導者、ゲストティーチャー等と連携し、学校だけでなく家庭や地域とつながりながら道徳教育を推進するとともに、道徳科の学びと日常生活との関連を意識した道徳学習プログラムの充実を図る。

(3) 研究仮説

自分事として主体的に考え、議論する道徳科の授業づくりを進めるとともに、対話の充実を図りながら、「はなしたいわ」シートの活用や道徳学習プログラムの充実を図ることにより、児童生徒が自分の考えを根拠をもって表現し、他者との対話を通して自己の生き方について主体的に考える力を育成することができる。

その結果、本学園が目指す「何事にも挑戦し、自律し、課題解決に向けて真摯に努力し続ける」児童生徒の育成につながるであろう。

5 研究内容

(1) 主体的に考えるための工夫

① 課題提示（導入の工夫）

事前アンケートの活用，実際に起こりそうな場面の提示，生徒の感想の活用等

② 教材提示の工夫

具体物の利用，TTでの役割読み，板書の工夫（黒板シアター）等により，児童生徒が教材に入り込み，自分との関わりで考えられるようにする。

(2) 考え，議論するための工夫

① 議論する場の設定

・コの字型の机配置…机をコの字型にすることで，お互いの顔を見ながら話し合い，学べるようにする。

・対話の形式…考えをペア，グループ，全体へと広げることで，自分の考えに自信をもたせたり，考えを広げたり深めたりすることにつなげる。話し合いの際には顔を見て話したり，認め合う聞き方をしたりすることを大切にする。

また，対話の形式の一つとしてサークル対話を取り入れ，円形に座り，互いの顔を見ながら安心して発言できる雰囲気をつくることで，一人一人が自分の考えを大切にしながら，他者の考えを受け止め，対話を通して考えを広げたり深めたりすることにつなげる。

・広南中学校区「はなしたいわ」シートの活用

低学年：自分の考えとその理由を話すこと

中学年：友達の考えと比較しながら考えを話し合うこと

高学年：友達の考えと比較し，自分の考えを見つめ直しながら話し合うこと

中学生：自分の考えを見つめ直したり，他者の考えを自分の考えに生かしたりしながら，話し合うことを目指し，9年間を見通しながら議論のレベルアップを目指す。

② 自分の考えをもたせる

ネームプレートを用いて黒板に考えを貼らせたり，ICTを活用して2つの選択肢から選ばせ，キーワードを使って理由を書かせたりするなど，自分の考えをもたせる。

③ 発問の精選

・中心発問を吟味…児童生徒にとって新しい学びは何か，考えたくするような発問

・補助発問の準備…さらに道徳的価値を深められるような発問

(3) 自己を振り返るための工夫

① 振り返りの視点の活用

振り返りの視点を活用し，学習内容とこれまでの自分の生き方を比較して考え，友達の考えを聞いて自分はどうか考えたか振り返ることができるようにする

② 道徳科の学びと生活（道徳的実践）の結び付け

心に響く教師の説話，スライドショー等を通して，児童生徒が気付いていない行動や姿について価値付けを行い，道徳科の学びを自らの生活とつなげ，これからの実践意欲に生かせるようにする

(4) 学びをいかす工夫

① 道徳学習プログラム

道徳科の学習と他の教育活動とのつながりを「見える化」し，道徳科で学んだことと生活との結びつきを実感できるようにする。活動後には，どのような学びがあったのかを振り返り，児童生徒とともに学びや気づきを共有する。

<関わりのある活動>

〔相手を大切にする礼節の校風づくり〕

○生徒会活動 ○5つの合言葉・3つの約束 ○いじめ撲滅プロジェクト

〔先輩後輩・地域との絆づくり〕

○絆 PROJECT（異年齢交流） ○学園朝会

○広南芸術鑑賞会 ○広南学園運動会 ○広南劇場・広南寄席 ○せとうち海援隊活動

○地域行事への参画 ・小坪神楽・祭り・広子ども祭り・ふれあいサロン・敬老会

〔健康・運動・生活づくり〕

○部活動 ○食育の充実 ○読書活動

〔活躍・挑戦の場づくり〕

○授業での活躍の場 ・予習課題・復習課題の活用（家庭学習の活用）・ミニ発表会

・班発表 ・ミニ先生 ・教え合い

○校外への挑戦の場 ・トリプル3（漢検・数検・英検）・各種学力調査

・二刀流（漢検・くれチャレンジマッチスタジアム）

・科学研究，発明工夫 ・各種応募作品 ・部活動の大会

・総合文化行事，英語暗唱大会，話し方大会，合唱コンクール

② 学習の足あと

道徳科で学んだことを教室に毎時間分掲示し、学習の足あととして記録に残す。



学習の足あと

6 検証について

(授業)

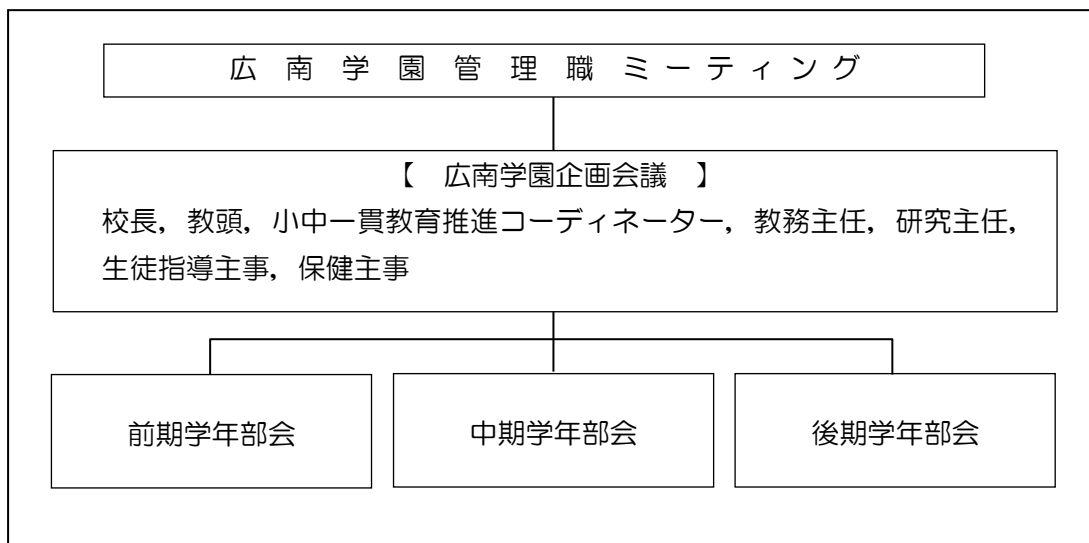
検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 道徳の授業では、自分のことを振り返りながら考えている。	児童生徒の意識調査	児童生徒の肯定的評価	小 95.8 中 100	96.0
② 道徳の授業で友達と話合うなどして、考えを深めたり、広げたりしている	〃	〃	小 97.8 中 100	95.0
③ 道徳の授業で勉強したことを、自分の生活にいかしている。	〃	〃	小 95.8 中 84.4	95.0

(生活)

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
④ 自分にはよいところがあると思う。	児童生徒の意識調査	児童生徒の肯定的評価	小 80.9 中 79.6	85.0
⑤ 将来の夢や目標を持っている。	〃	〃	小 91.3 中 79.6	92.0
⑥ 今住んでいる地域をよくするために何かしてみたいと思う。	〃	〃	小 96.3 中 87.8	95.0

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等

(中→小)

国語科	… 第5学年	年間20時間程度
理科	… 第6学年	年間20時間程度
体育科	… 第6学年	年間20時間程度
外国語科	… 第5学年	年間20時間程度
クラブ	… 第4～6学年	年間20時間程度

イ 小学校教科担任制

第3～6学年	理科
第3～6学年	音楽科
第5～6学年	家庭科
第2学年	図画工作科

8 推進計画

月 日	内 容
4月 1日 (水)	広南学園企画会議 事前打合せ (今年度の取組)
2日 (木)	広南学園研修会 (本年度の取組・組織・計画について)
27日 (月)	広南学園企画会議 (5月の予定等)
5月12日 (火)	広南学園運動会予行
16日 (土)	第15回広南学園運動会
27日 (水)	広南学園企画会議 (6月の予定等)
6月19日 (金)	広南学園研修会 研究授業 小学校 (第6学年) ① 谷田教授
6月29日 (月)	広南学園企画会議 (7月の予定等)
7月29日 (水)	広南学園企画会議 (8月の予定等)
8月28日 (金)	広南学園企画会議 (9月の予定等)
9月29日 (火)	広南学園企画会議 (10月の予定等)
10月29日 (木)	広南学園研修会 研究授業 ?学校 (第?学年) ② 谷田教授
10月30日 (金)	広南学園企画会議 (11月の予定等)
11月27日 (金)	広南学園企画会議 (12月の予定等)
12月 2日 (水)	小中合同クリーン活動
1月 6日 (水)	広南学園企画会議 (1月の予定, まとめに向けて等)
1月20日 (水)	広南学園研修会 研究授業 ?学校 (第?学年) ③ 谷田教授
1月29日 (金)	広南学園企画会議 (2月の予定等)
3月10日 (水)	広南学園研修会 (各部会の報告, 本年度のまとめ, 来年度に向けて)
3月10日 (水)	広南学園企画会議 (来年度に向けて等)

9 その他

・令和8年度 広南学園 学園朝会 計画

月 日	内 容
4月17日(金)	職員紹介 児童委員会・生徒会執行部紹介 礼節, 集団訓練 広南学園運動会 結団式
5月 7日(木)	運動会に向けて全体練習(中学校グラウンド) 気をつけの姿勢と深い礼 運動会のテーマとスローガン
6月 4日(木)	いじめ撲滅決起集会 第1回いじめ撲滅キャンペーンの取組について
10月 6日(火)	いじめ撲滅標語の披露・表彰 第2回いじめ撲滅キャンペーンの取組について
11月 5日(木)	五色百人一首集会(古典の日の取組として) 「古典に親しもう」
12月 3日(木)	広南学園遊び 縦割り遊び
2月 9日(火)	9年生を送る会

・小中一貫教育だより(年1回発行予定)

※ カリキュラムマップを添付する。